

## 平成 16 年度事業計画

平成 16 年 4 月 1 日

平成 17 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人自然塾丹沢ドン会

### 1 . 現状の課題と事業の目的

#### [現状認識]

薪炭林がエネルギー革命で不要となり又、高度経済成長時に専業農家が兼業化した以後、里山に人手が入らなくなった。さらに兼業農家の世代交代で里地にも耕作放棄地が多く出るようになった。その結果、里山の雑木林では、笹がはびこると共に四季折々の美しさを醸し出すクヌギ、コナラの落葉広葉樹林から、変化のない冬をも日を遮るカシ、クスノキといった常緑広葉樹林(照葉樹林)への自然の摂理に従う遷移が始まっている。これは雑木林を中心とする生態系を崩し、山麓の伝統的景観、生物の多様性を崩壊しかねない。里地の耕作放棄地は草のみならず、竹、灌木まで茂り原野化している。放置すればふるさとの原風景ともいえる里山里地風景が消えることになる。

#### [課題]

農業後継者は勤務先から十分な報酬を受けることで、農業との兼業をする必要性が薄れた。その結果、耕作放棄地は年々増加をすることになる。地元の人にとって負担になり始めたこの里山里地を誰かが使わなければ荒れ、原野化する。ここで求められるのは環境の調査や研究だけでなく、又単なる自然保護のスローガンを掲げ大きな声で行政や市民に呼びかける運動でない、自らが汗する実践活動である。そのため多くの都市住民の理解と参加による協働、共生が課題となる。

#### [対応の方向]

本物の自然に触れていない都市住民は里山里地に癒しを感じ、そこでの労働に快感を覚える。これが参加の持続性の原点となる。より多くの参加者を募り、参加者自らが果たす役割、存在価値を大いに高める努力をする事で、かつての農家の人たちが技術と長い経験に基づく知恵そして何より多くの時間を要して維持管理してきた里山里地を、数の力で悩まず苦しまず保全する事が可能となる。多くの参加者を受け入れる事ができる組織力、資金力強化のためのバイオマス利活用などによる収益事業の開発に努めつつ里山里地の持つ生物多様性の保護、そして結果として伝統的景観の保全を図る。

### 2 . 事業を行うことで期待できる具体的な効果や成果

#### [事業の先駆性]

里山への笹の進入、萌芽更新の遅れによる落葉広葉樹林帯の照葉樹林帯への遷移の進行、そして里地の耕作放棄地の増大は全国共通の問題点である。しかしこれらの地は生産資源や環境資源として重要なだけでなく人の五感を和ませ、豊かな人間性を育てる文化資源的な価値がある。この五感を和ませる力を持って里山地域と都市住民の協働、共生の組織化及びその強化は可能であり必要である。更に余暇人口は増加傾向にある。受け入れ態勢の強化を図る事は急務である。

#### [具体的な効果や成果]

丹沢山麓の里山(雑木林)のほとんど全てから薪炭林であった頃の面影が消え、アズマネザサの進入により人が入ることを拒む林となった。萌芽を促すために15年周期で切られていた落葉広葉樹が大木化し、後継木とされる稚樹は、アラカシ、アカガシと言った常緑広葉樹しか見当たらない。笹を切ることは難しくなく、参加者が多ければ対象の里山が増える事になる。里地の耕作放棄地も同じ、労働集約型であることから参加者が増える事で対象は多くなる。参加者が増えれば対象地域が広がり、広がるだけ効果は大きくなる。

目的は景観保全だが、具体的には里山里地の環境保全機能の保全であり、その効果は数値で表現はできないが限りなく多い。気象緩和(気温条件緩和、地温条件緩和、木陰、防風)水保全(水量平準化、水質良化、貯留)侵食防止(水食、風食防止)自然災害(山崩れ、風害)大気浄化(二酸化炭素吸収、貯留、汚染物吸収)生物種保全、保健休養、景観の保全。教養教育

#### (波及の方法及び効果)

里山里山には癒しの力がある。それゆえ、参加あるいは自らが中心となって行動を起こすことを望む人たちは多い。事業効果を公表し、見せるだけで他への波及は必至と思われる。いかに成果を多くの人に見せるかにかかっている。行政には広報及び地権者の斡旋を求め、それをシステム化することで誰もが、どこでも事業を実施できることになる。全国的な展開を見せることで全国の里山は昔ながらの四季折々美しさを見せる景観を維持する事が可能となる。さらに、不要になった里山の木々を利活用する事で里山は次の展開を見せることになる。ボランティアに、そこそこの収益性を持たせることにより里山の美しさは定着する。資源は里山のバイオマスになると思われるが、2007年の余暇人口の増大を見越し、受け入れ態勢を築き上げる資源にもなる。

### 3. 事業の内容(内容・対象と人数・実施日程・従事者・実施場所・予算)

#### 事業1: 里山里地保全事業

[内容] 山麓の伝統的景観の保全を目的に里山に関心のある希望者を募り、山ろくの風土、生態系を学びながら、里山の生態系の一員として農家の人たちのして来た行動を再現し

ながら生態系の保全、復元に努める。

[対象と人員] 公募多数

[実施日程] 通年

[従事者] 本会メンバー

[実施場所] 丹沢山麓

[予算] 1,069,000

#### 事業2：棚田復元事業

[内容] 里山の谷戸の多くの水田は耕作放棄地となっている。水のある環境は美しいふるさとの原風景であるとともに生物の多様性を育む守らなければならない地域である。希望者を募りこの復元に取り組む。

[対象と人員] 公募多数

[実施日程] 通年

[従事者] 本会会員

[実施場所] 丹沢山麓 谷戸田

[予算] 1,179,000

#### 事業3：情報事業

[内容] 丹沢山麓の自然環境に関する情報の発信に努める。

[対象と人員] インターネットにより全国配信 情報誌は希望者

[実施日程] 通年

[従事者] 本会会員

[実施場所] 神奈川県内及び全国

[予算] 1,062,000

#### 事業4：シンポジウム開催事業

[内容] 丹沢山塊及びその山麓に関する現時点の問題を取り上げ広く呼びかけ、市民とともに考える。

[対象と人員] 公募 150人程度

[実施日程] 11月実施

[従事者] 有識者及び本会会員

[実施場所] 秦野市内

[予算] 230,000

[事業の予算総額] 3,540,000円

#### 専門性のアピール

蕎麦栽培から始まった事業は10年余を経て里山の笹、下草刈り、ブロック全伐を経験、萌芽をさせ、生長を見守り、伐採した木に椎茸栽培行い、また棚田復元のための焼畑、田起こし、水路整備、田植えなど会員全員が指導者になれるまでに経験を積み、知識を有している。

環境カウンセラー (岡 進) 森林インストラクター (辻 真澄) 樹医・キャスター (松田輝雄) 編集出版 (片桐務) 医師 (大森浩司) 芸術 (西巻一彦・横山徹) PC 技術 (関野和之) 農業・土木技術 (関野丑松) チェンソ-彫刻 (今井次男) 植物生理学 (室田憲一) その他 プロカメラマンなど専門家は多彩。

#### 4 . 事業のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業1	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
事業2	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
事業3	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
事業4						立案	広報	実施				

事業1 : 里山里地保全事業 事業2 : 棚田復元事業 事業3 : 情報事業

事業4 : シンポジウム開催事業

#### 5 . 今後の事業展望

事業1 : 里山里地保全事業

(目標) 里山は生物相豊かな明るい、落葉広葉樹林として次代に引き継ぐ。

里地は耕作放棄地をなくし、多くの人々が安全で安心できる農作物の生産を楽しむことができるようにする。

(具体的な取り組みの内容とスケジュール)

メンバーの数に応じて地権者、自治体の協力を得て丹沢山麓いたるところで保全事業を展開すると共に指導者を育成をすることで地域ごとの自立展開を目指す。通年

事業2 : 棚田復元事業

(目標) 谷戸田の水環境は生物の多様性に欠くことができない。耕作放棄地があれば復元し、水田が可能であれば水田として復元し、それが不可能であれば地権者の協力を得て、その他作物栽培、ビオトープとする。

(具体的な取り組み内容とスケジュール)

メンバーの数に応じて地権者、自治体の協力を得て丹沢山麓いたるところで復元事業を展開すると共に指導者の育成をし、各地域ごとの自立展開を目指す。通年

事業3 : 情報事業

(目標) 丹沢山麓の里山里地に関する情報の発信をし続ける。

(具体的な取り組み内容とスケジュール)

毎月情報誌を発行すると共にインターネットによるHPを都度更新し情報の発信と収集に努める。通年

事業4 : シンポジウム開催事業

(目標) 山麓の問題点を市民と共に考える。

(具体的な取り組み内容とスケジュール)

年1回開催とする。より多くの市民が参加し、問題点の所在、放置した場合の将来、解決策などを考える。

[ボランティア活動補助金交付終了後の事業見通し]

補助金交付を受けている間にそこそこの収益事業を見出し、補助金交付を得ていたときと同様な事業ができるようにする。

7. 今後の団体の活動展開

[目標] 丹沢山麓の伝統的景観の保全に努める

[主たる事業]

里山里地保全事業 :里山里地の生態系の保全が景観保護に繋がる。その為、里山の生態系の一員であった農家の人たちと同じような行動が求められる。かつての農家が多く時間を掛けてこなした事を、多くの人で短時間でこなす方法をとるため、人手が必要となる。更に慣行農法でない新たな農法を実験し、らくして安全で安心できる農作物の栽培に努めると共に、他の生物と共存できる里山里地とする。

[組織体制の整備]

持続できる事業展開のため非営利部門のほか収益事業部門を設置し、事業の安定拡大を図る。

[事務所や設備等の整備]

収益事業を展開する段階で事務所を設置する。それまでの間は理事長、専務理事の事務所を借用し、農業機械は現地倉庫におき管理する。

[財政基盤の整備]

現状は会費、助成金で会運営が賄われており、助成金に頼らない財政運営が求められる。その為にも、収益事業の早期確立を図る。

[他のネットワークの構築]

同様な事業を展開している会は多いと思われるがネットワークを組み協力し合うことはない。今後は積極的にネットワークを構築し、補い合う事は大切な事である。